

## 麴製造所の再興支援

住所	宮城県石巻市旭町3丁目24番地	資本金	—
代表者	佐藤 憲光	従業員数	2名
創業年	明治42年	売上高	—
業種	麴製品の製造・販売		
TEL	0225-22-1708	URL	http://hana-kouji.strikingly.com

### 事業概要(被災前)

- ・明治42年創業(2014年で105年目になる老舗)で、唯一最後の麴製造所。
- ・現在では、東日本大震災の影響等により、石巻圏内(石巻市、東松島市、女川町)で唯一最後の麴製造所。
- ・製品は、生麴、華麴、仕込み味噌、潮こうじ、紫麴、種麴の6品目。

常に麴菌が生き  
ている生麴



### 被災概要

- ・津波により、店舗・住宅・工場・倉庫の4棟が床上浸水による大規模半壊。
- ・被害額は製造機器、備品、商品在庫等で4,900万円ほど。
- ・工場設備の殆どが使用できない状態となり、先代は再建を断念。
- ・1年の期間を経て、自らも女川町で被災した先代の娘婿が島津の店を継承。
- ・残された設備で細々と麴づくりを独りで再開していた父親の姿をみて、息子も会社を辞め、父親と二人で母親の実家である島津麴店の再興に加わる。

石巻市内  
の状況



### 復興に向けた状況や課題

- ・施設・設備のほとんどが使用できない状態(店舗・工場・倉庫の復旧には2,000万円ほどの資金の調達を要する)。
- ・承継者である現代表は、基本は畑違いの職業(不動産登記の測量事務所経営)であり、麴店経営のノウハウなし。
- ・以上から、麴店の再興はゼロからのスタートともいえる状況(ゼロからの事業計画の策定が必要)。



### 支援テーマと内容

#### 1. 事業計画策定の支援

ゼロからの事業再構築。事業計画の策定は現状分析、環境分析、財務分析等を実施し、経営理念、事業コンセプト、事業ドメインを明確にするところから始まる。麴自体の市場の発展可能性に着目。

#### 2. 資金調達の支援

現状の生産設備では細々と営業を行うことしかできない。家族経営を脱して成長の軌道に乗るため、生産設備を早期復旧し、補助金を含めた資金調達を支援する。

#### 3. 販路拡大の支援

「復興需要に頼らない商品づくり」が重要。また、震災で顧客情報の全てを失った一方、麴ブームにより大手食品メーカーが進出し市場が急拡大。販売計画と実行計画の策定を支援する。

## 支援の成果

復旧した製造所、基本は手作り  
今後は工場見学のルートも整備予定



主力商品の華糰  
Nホテル、Sホテルでの採用決定!!



島津麴店の「華糰」を使ったロールケーキ、砂糖のかわりに糰を使っている。(菓子の三平)

## 支援の成果

1. 事業計画の策定支援  
事業展開の方向性と具体的な施策方針が固まる。
2. 資金調達の支援
  - ・グループ補助金申請の支援により、第6次公募で採択(石巻消費生活関連復興グループ)。
  - ・補助事業の手続きが円滑に進み、施設・設備の復旧が完了。
  - ・増加運転資金の調達。
3. 販路拡大の支援  
チャネルの検討、チャネルごとの販売行動計画書の作成やホームページ作成などについて指導・アドバイスを実施。  
その成果として
  - ・近隣の菓子店で砂糖のかわりに当社の糰が採用。
  - ・宮城県等から各展示会への参加要請を受ける。着実に知名度が向上した結果、有名ホテル、道の駅への商品の採用、また仙台駅(食材宮城販売ブース)への出品に至った。
4. 糰の売上については、被災前の約5倍に増加。現在も多方面から問い合わせがあり、さらなる売上増を見込む。

## 今後の事業展開

1. 商品戦略  
現在の主力である「華糰」の他、高級ブランドの「錦」や、普及ブランドも増やす。
2. チャネル開拓
  - ・インターネット販売(一般顧客用)。
  - ・BtoBの展示会への参加(業務用)。
3. 販売促進
  - ・みやぎ産業振興機構の商品発表会を活用。
  - ・工場の見学ルートを整備(「お客様にみてもらえる工場」をコンセプトとする)。
4. 生産・店舗・組織体制
  - ・業務用(大容量のもの)をつくるための生産体制の整備
  - ・組織の法人化を視野。

## 事業者からのコメント

震災後、何をどう進めていくべきかがわからない中、事業計画の立て方や資金繰り、補助金事業の考え方や進め方について中小機構のアドバイザーから丁寧にアドバイスしていただいたことで、復旧、復興の道筋が見えてきました。

生産体制が整ったあとの、販売戦略等については今後の課題ですが、石巻商工会議所にある定例の相談窓口(中小機構からアドバイザーを派遣)を活用するなど、継続的な支援を気軽な形で受けさせていただいています。ほかには各種の施策や展示会等の情報のご提供はとても助かっています。今後、まだまだ乗り越えるべき壁はありますが、将来、組織を法人化したり、仙台にも工場と販売店を持ちたいという夢もあります。



佐藤憲光 事業統括

## 震災復興支援アドバイザーからのコメント

震災で一度は、復興を断念したが、娘婿の佐藤憲光氏が「何とか再興したい」と事業再興を模索し、宮城県を頼りに中小機構に支援を依頼してきたことがきっかけでした。大津波で被災した店舗と工場(生産設備)の復旧には資金が必要であり、そのための事業計画が欠かせないことから、その策定から着手しました。

事業計画策定で最も重要視したのは、製品別利益と、生産量と販売量とのバランスでした。さらに、行動計画では販売計画がポイントで、「震災特需」に頼らない商品づくりが課題となります。このため、地元の食品企業とのコラボレーションによる新商品開発など「石巻ブランド」による長期視点に立った商品・市場戦略を提案しています。今後、本格的な事業展開に合わせて経営支援を継続する予定です。



震災復興支援アドバイザー  
営業コンサルタント 西村哲雄